

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

資料2-2

全体評価

1 総評

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>公立大学法人青森公立大学は、教育・研究の一層の推進と活性化を図ることにより、青森市の発展のために必要とされる有為な人材の輩出と、大学が持つ知的財産を市民に還元し、経営経済をはじめとする各分野において、市が掲げる施策の推進に貢献し、市民の生活及び文化の向上に寄与していくことを使命としている。 ※第2期中期目標 前文</p> <p>第2期中期目標期間（平成27年度から令和2年度まで）においては、教育研究の質の向上に向けた多くの取組を実施していること、学生が主体となる地域課題解決に向けた活動や、自治体や民間団体との連携による地域貢献など、地域を重視した活動を積極的に行っていること、その取組内容が、認証評価機関による評価において、学生支援及び社会連携・社会貢献の2項目で最上位のS評価を受けたことは高く評価できる。</p> <p>特に、GPA（成績評価平均値）による成績評価を活用した学生の育成に努め、文部科学省の「国内大学のGPAの算定及び活用に係る実態の把握に関する調査研究」において、調査対象の国内757大学のうち、特に成果を挙げている7大学として、公立大学では唯一選ばれたことは、高く評価できる。</p>	<p>○教育、研究、地域貢献等について積極的に取り組み、認証評価機関において、学生支援及び社会連携・社会貢献に関する項目が最上位のS評価を受けたことは高く評価できる。</p> <p>○教育、研究、地域貢献、その他の業務について、それぞれの中期目標を達成しており、高く評価できる。特に、文部科学省が行ったGPAの活用等の調査において調査対象の国内757大学のうち、特に成果をあげている7大学に選ばれた点や、就職率の毎年度目標値96%に対して約99%を維持した点は高く評価できる。よって第2期中期計画について、その目標を達成したものと評価できる。</p> <p>○GPAに基づく成績評価を徹底し、成績優秀者の表彰及び成績不振者の個別指導等により、学生の育成支援に努めていること、また、授業評価アンケートに基づく教育改善等により、教育の質の向上に取り組んでいることは評価できる。</p> <p>○第2期中期目標期間の中で、「国内大学のGPAの算定及び活用に係る実態の把握に関する調査研究」において、本学が公立大学としては唯一、特に成果を挙げている7大学に選ばれたことは、これまでの本学の取り組みが高く評価された証しであり中期目標期間における大きな成果と言える。</p>

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

また、キャリア支援に向けた取組により、就職率96.0パーセントを維持するという目標値に対し、平成27年度から令和2年度まで、毎年度実績値が上回っていることは評価できる。

総じて、中期計画に定めた事項を着実に実施しており、中期目標を達成していると評価できる。

今後も、経営・経済という専門性や、国際芸術センター青森が付帯するという特性を生かし、研究活動の地域還元や、学生が主体となる地域振興の取組を一層推進し、青森市が掲げる施策の推進や、市民生活及び文化の向上に寄与することを期待する。

○企業連携推進員の配置、県内企業バスツアーの実施などキャリア支援の充実を図り、計画期間中のほとんどにおいて、99%以上の就職率を維持していることは評価できる。

○全体の評価は、中期計画を十分に実施しているB評価の項目の割合が高く、また中期計画を上回って達成しているA評価の項目もかなり見られ、全体としての評価は概ね順調であるといえる。

○この中期の期間において学生ないし大学としての地域連携の密度は大きく高まったと考えられる。学生が街中やフィールドに出向き研究調査を実施したり、イベントを企画・実施したりする姿が普通に見られるようになってきている。また、活動報告が外部で受賞したり、メディア等で取り上げられるケースも増加している。教員の意識も変化しつつあり、アクティブラーニング室の稼働率は上昇している。さらに、この期間において成績不良者数が減少しており、教育の成果が高まっているとみられる。

○業務運営や経営・財務内容は順当に推移しており、自己点検や外部評価の対応状況のほぼ順調といえる。さらに、国際芸術センター青森の存在は大きく、大学としてより有効に活用していくことが課題となっている。

○大学の専門性を生かした研究活動、地域貢献活動の推進を期待する。

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

2 業務の実施状況

教育研究等の質の向上（教育、研究及び地域貢献）に関して、G P Aによる成績評価を徹底し、成績優秀者に対する表彰及び成績不振者に対する面談を行うといった取組や、高等学校への訪問やオープンキャンパスの実施等の学生確保の取組を実施している。

また、県内企業バスツアーの実施等の取組により、就職率は目標値の96パーセントを毎年度上回っている。

地域貢献活動として、県内自治体等と連携を図りながら、地域課題の解決に取り組んでいる。

経営・財務内容の改善に関して、新たな学事情報システムの導入等による業務の簡素化・効率化や業務改善を継続している。

自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供並びにその他の業務運営に関して、当評価委員会の評価結果を踏まえ、計画を十分に実施していない項目のフォローアップ、公表や、F D（教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組）研修を実施している。

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

3 組織、業務運営等に係る改善事項等

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>大学院課程については、志願者の確保に向け、教育の実施体制及び内容の検討を求める。</p> <p>教員職員を対象とした人事評価について、早期の本格実施を求める。</p> <p>研究関連収入の件数及び金額の増加並びに寄付金等の外部資金確保に向けた取組を求める。</p>	<p>○コロナ禍の影響を反映した令和2年度の年次評価にくらべて、中期の期間全体の評価となるため総じて良好な評価項目がほとんどとなった。一部の年次でマイナス評価であっても期間全体ではプラスに転じることができる。しかし、一部の項目では前提として厳しい状況を示している。それは、大学院の入学者状況であり、大学として様々な対応策を検討し、実施した結果を受けても依然として入学者が1～2名と低迷している点である。中長期的な視点から抜本的な検討が必要とされているといえる。</p> <p>○教員及び事務職員の人事評価の本格実施を行うとともに、評価結果を活用して、大学組織の活性化を図ることが期待される。</p> <p>○グローバル化への大学の対応も始まっているが、その動きは限られている。語学研修やが海外留学への参加者が大幅に増加することが期待される。研究活動については、戦略的研究支援制度も実施されており、継続的な各種研究が行われ様々なチャンネルで情報発信がなされている。今後は外部研究資金のより多くの獲得が期待される。</p>

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

項目別評価

1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>学生の育成に関して、GPAによる成績評価を徹底し、成績優秀者に対する表彰及び成績不振者に対する面談を行うといった取組を実施し、文部科学省の「国内大学のGPAの算定及び活用に係る実態の把握に関する調査研究」において、調査対象の国内757大学のうち、特に成果を挙げている7大学として、公立大学では唯一選ばれたことは高く評価できる。</p> <p>教育方法及び実施体制に関して、FD研修の実施や、オンライン授業環境等の学修環境の整備により、教育の実施体制を改善していること、アクティブラーニング室の活用等により学生が主体的・能動的に学修できる教育方法に改善していることは評価できる。</p> <p>学生の受入に関して、県内外の高等学校への訪問、オープンキャンパスの実施、模擬講義や学生等によるキャンパスツアー、進学説明会の実施などにより、入学定員の3倍程度の志願者という目標を概ね達成したことは評価できる。</p> <p>一方で、大学院については、令和元年度を除き、毎年度の入学者数が入学定員を満たしておらず、志願者の確保に向け、教育の実施体制及び内容の検討を求める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文部科学省が行ったGPAの活用等の調査において、調査対象の国内757大学のうち、特に成果を上げている7大学に選ばれた点は高く評価できる。 ○「国内大学のGPAの算定及び活用に係る実態の把握に関する調査研究」における高い評価をはじめ、大学基準協会による「学生支援」項目でS評定を受け、支援水準の質の高さが外部評価によって証明されたことは特筆される。 ○成績不振者数は年度によってバラツキがあるが減少傾向にあり、地道な個別指導などの効果が上がっていると見られ、A評価は妥当である。 ○教育方法の改善に関して、FD研修を継続的に実施し、教育方法や実施体制の改善につなげていることは評価できる。 ○アクティブラーニング室の利用回数が増加傾向にあって望ましいが、利用する教員数の増加も期待される。B評価は妥当である。 ○学生へのアンケート調査の結果などを踏まえて、Wi-hi環境の整備やプロジェクター・ディスプレイ等の整備が進められてA評価となっているが、今後も継続的な対応措置が期待される。 ○高校訪問、オープンキャンパス、キャンパスツアー、秋田市での進学説明会等により、入学定員の3倍程度の志願者という目標を概ね達成したことは評価できる。 ○大学院の入試状況については、令和元年の6名以外では毎年数名の入学者に限られており、留学生枠を設けるなどの抜本的な対応策についても検討を進めるべきである。この項目についてはC評価と判断した。

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

キャリア支援として、就職率96.0パーセントを維持するという目標値に対し、県内企業バスツアーの実施等の取組により、実績値は、平成27年度は98.9パーセント、平成28年度は99.0パーセント、平成29年度は99.3パーセント、平成30年度は99.7パーセント、令和元年度及び令和2年度は99.3パーセントと、毎年度目標値を上回ったこと、認証評価機関による評価において、学生支援の項目でS評定を受けたことは、高く評価できる。

グローバル化への対応に関して、語学研修や留学制度等、多くの学生が、海外での教育の機会の充実が図られるよう取組を期待する。

その他の事項についても、中期計画に定めた事項を着実に実施していると認められることから、全体として、中期目標を達成していると評価できる。

○キャリア支援について、企業連携推進員を配置し、県内企業バスツアーを年々充実させていること、計画期間中、平成27年度を除き、常に99%以上の就職率を維持していることは評価できる。

○県内企業バスツアーが年々充実してきており、訪問企業数や参加学生が増加している。県外から入学した学生にとっては青森県内の企業を知る絶好の機会となるので、今後も継続的な実施が期待される。A評価は当然といえる。

○語学研修や海外留学の体験が英語圏に限られており、今後はアジア圏にも拡大していくことが期待される。また、海外交流先の大学からの留学生の受け入れなども検討してはどうだろうか。教員のサバティカル研修制度で海外へも出かけており、留学生の開拓も意識していただくことも考えられる。

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>地域課題・国際課題の研究に取り組むため、地域連携センタープロジェクト事業を増加させたことや、戦略的研究助成事業の見直し及び地域貢献活動推進制度の創設により、研究活動を促進していることは評価できる。</p> <p>公開講座の開催等による研究成果の地域還元や、海外研究者を招へいした研究会等の実施は評価できる。</p> <p>今後、経営・経済という専門性を生かした地域課題解決に向けた研究活動の一層の推進、知見やネットワークの蓄積に向けた環境整備、積極的な情報発信を期待する。</p> <p>その他の事項についても、中期計画に定めた事項を着実に実施していると認められることから、全体として、中期目標を達成していると評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に地域連携プロジェクト事業を増加させたこと、地域貢献活動推進制度を創設し、研究活動を促進したことは高く評価できる。 ○地域課題や国際的な課題に関する研究の推進を中期目標として掲げてきたが、中期計画スタートの平成27年度を基準とすれば、新型コロナの影響を受けた令和2年度を除くと、中期目標期間中に取組件数が2倍～3倍に増加し、成果が表れている。 ○A評価としている「研究内容に関する目標を達成するための措置」について、地域連携センタープロジェクト事業の積極的な増加、戦略的研究助成事業の推進及び地域貢献活動推進費の創設により、研究を推進したことは評価できる。 ○戦略的研究助成制度が経年的に実施されてきており、青森公立大学が得意とする研究領域が次第に形成されることが期待され、私もA評価とする。 ○公開講座をケーブルTVで放送したり、動画をまちなかラボで閲覧できる環境が整備されており、この情報発信を視聴していただけるようにしていく工夫が求められているといえる。 ○サバティカル制度の効果を研究者個人に留めずに、大学のネットワーク資産としても積極的に活用していく工夫が期待される。 ○学内の共同研究が活発化し、研究知見やノウハウ、人的ネットワークが効果的に蓄積していけるような環境整備、交流企画、研究資金提供などが図られることが期待される。首都圏における研究拠点の設置なども期待される。

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

3 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（地域貢献）

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>地域連携の強化に関して、地域貢献の基本方針・指針を定め、地域連携センターの体制及び事業を見直すとともに、学生が主体となる取組を含め、県内自治体との連携を図りながら、地域課題の解決に取り組んでおり、認証評価機関による評価において、社会連携・社会貢献の項目でS評定を受けたことは評価できる。</p> <p>青森商工会議所や公益財団法人21あおもり産業総合支援センターと連携し、青森市の課題解決や起業・創業に向けた取組等を行ったことは評価できる。</p> <p>今後、「スタートアップラボ」の利用促進等の一層の取組を期待する。</p>	<p>○A 評価としている「地域連携の強化に関する目標を達成するための措置」について、大学の地域貢献の基本方針を定め、地域連携センターの体制及び事業の見直しを行ったことは評価できる。</p> <p>○本学の地域貢献の基本方針・指針に基づき、地域連携センターの体制強化をはじめ予算面等の対応など一連の推進施策の実施が成果に結びついたものと評価する。</p> <p>○学生の地域貢献活動は様々に展開されており、自己評価ではBと評されているが、私は十分にA評価と認められる水準にあると考える。ゼミでのフィールドワークを始め、「青森まるっとよいどころ祭り」、「風間浦村の地域ブランド総選挙」、「青森市ビジネスアイデアコンテスト」など多様な活動を積極的に展開していく。</p> <p>○大学基準協会による大学評価において、「社会連携・社会貢献」の項目でS評定を受け、本学の積極的な取組姿勢が外部評価によって証明されたことは特筆される。</p> <p>○自治体や企業との連携協定の締結は、安定した交流や様々な事業企画・実施のパートナーとして非常に重要であり自己評価でもA評価となっているが、私も同様にA評価と考え、戦略的に提携相手を選択して有効な関係を形成することが求められると思う。</p> <p>○青森商工会議所や青森市中心市街地商店街と連携し、様々な地域貢献事業を実施した点や公益財団法人21あおもり産業総合支援センターと提携し学生向け起業・起業セミナーを開催した点は高く評価できる。</p> <p>○地域連携センター内の起業・創業を支援する「スタートアップラボ」の機能等は重要でありA評価となっているが、利用者が極度に少ない状況にある。学生に周知すると共に、呼び水的なプロジェクトないしサービスメニューなどを準備する必要性が感じられる。</p>

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

また、引き続き、地域の大学間連携、地域の企業等との連携、国際芸術センター青森の活用等、学生の主体的な地域貢献活動に対する支援による地域貢献に期待する。

その他の事項についても、中期計画に定めた事項を着実に実施していると認められることから、全体として、中期目標を達成していると評価できる。

- 公立はこだて未来大学との交流事業は貴重であり、A 評価に十分に値する。今後も着実に継続させると共に、もっと遠隔地や海外の大学との交流事業の創出も期待される。
- A 評価としている「情報提供に関する目標を達成するための措置」について、メディアラボを創設したこと、オンライン授業システムの導入において、フィールドワークや NPO との連携にも活用できるようにしたことは評価できる。
- 国際芸術センター青森は、国内外のアーティストと学生、市民との交流着実に図ってきており自己評価では B 水準となっているが、その意味合いからみれば A 評価と判断される。今後は学生が気軽に接することができる機会を増やしていく努力が求められる。
- 教員の意識の中で、学生の地域貢献活動や地域研究を積極的に支援していくという雰囲気が出てきていると思われる。この気運を大切に若い教員などに伝え、マスコミ報道なども巻き込みながら地域との交流チャンネルを今後もより拡充していくことが期待される。

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>教育研究・地域貢献組織の見直しに関して、地域貢献の基本方針・指針を定め、地域連携センターの体制及び事業を見直したことは、社会・地域情勢の変化に対応した大学の機能強化及び学生の地域貢献活動につながるもので、評価できる。</p> <p>引き続き、教育研究活動及び地域貢献活動の適切な実施に向け、組織や体制の継続的な見直しを期待する。</p> <p>人事の適正化に関して、教員職員を対象とした人事評価の試行を行ったことは評価できる。</p> <p>今後、組織の活性化のため、早期の本格実施を求める。</p>	<p>○「教育研究・地域貢献組織の見直しに関する目標を達成するための措置」として、大学の地域貢献の基本方針を策定し、地域連携センターの体制見直しなどを行ったことは、社会情勢の変化に応じて、組織の見直しを図ったものであり、評価できる。</p> <p>○教育研究・地域貢献組織の見直しについて、平成30年度から基本方針・指針に基づき、地域連携センター体制の見直しやメディアラボの設置などを行ってきており、企画・実行体制の強化が図られている。これに対し自己評価はBとなるが、私はこの基本体制が整備された結果として、学生などの地域貢献活動が大幅に改善されたのではないかと考えA評価としたい。</p> <p>○体制整備は困難を伴うが、時機を逃さずに実施することが求められる。また、時代環境の変化が激しい今日では、絶えず組織・システム・ルール・慣習などを見直さざるを得なくなっており、定期的に制度見直しを実施していくことが求められているといえる。</p> <p>○人事の適正化に関して、第2期中期目標期間内での試行を見込んでいたが、事務職員と教職員の人事評価について試行を実施するなど、評価制度の導入が着実に進んだ点は評価できる。</p> <p>○事務職員及び教員の人事評価の試行について、試行結果の評価を行った上で、本格的な実施に移行するとともに、評価結果を活用して、大学組織の活性化を図ることを期待する。</p> <p>○人事の適正化項目で、教員の人事評価を評価基準や評価項目、評価手段の検討を踏まえて令和2年度から施行実施している。大学の自己評価はBと慎重であるが、私はA評価としたい。教員管理の観点から見れば、多少のリスクのある施策であるが、よりよい組織づくりのためには不可欠の措置と考える。</p> <p>○教員職員を対象とした人事評価の試行を行ったことは評価できるが、早期の本格実施を求める。</p>

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

<p>その他の事項についても、中期計画に定めた事項を着実に実施していると認められることから、全体として、中期目標を達成していると評価できる。</p>	<p>○外部委託可能な事務のアウトソーシングや業務マニュアルの作成、新たな財務システムの導入等により、事務の効率化を図った点は評価できる。</p>
--	---

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>外部研究資金その他の自己収入の増加に関して、受験生確保に向けた取組による検定料の増加等、自己収入の確保に努めている点は評価できる。</p> <p>収入の多様性を確保し、教育研究を安定的に実施するとともに、民間企業、団体との協働を推進するため、研究関連収入及び寄付金等の外部資金確保に向けた取組を求める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○受験生確保に向けた取組による検定料の増加や外部資金等の自己収入の確保及び経費の抑制に努めている点は評価できるが、研究関連収入及び寄付金等のその他外部資金の増加に向けた取組が必要である。 ○研究関連収入の獲得について、情報収集及び学内への情報提供と申請の奨励に取り組んでいるが、今後も継続的な取り組みを行い、資金獲得件数及び金額の増加を図ることを期待する。 ○研究関連資金の獲得については、自己評価はBとなっているが、各助成・委託項目の推移状況を見ると、C評価が妥当ではないかと判断する。受託研究・受託事業は安定的に獲得できているわけではなく、学術文化振興財団のプロジェクトは非常に小規模であり、科学研究費助成金は金額的に主たる研究者ではなくて少額配分になっている。総じて競争的研究資金獲得のための企画書作成能力の向上と研究者間の人脈づくりなどが求められているといえる。 ○戦略的研究助成制度を活用した先行研究の実施や学会発表などを着実に実施し、まずは挑戦していく姿勢を大学全体として形成していくことが期待される。教員内部での機能の役割分担もある程度必要と思われる。

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

経費の抑制に関して、新たな学事情報システムの導入等による業務の簡素化・効率化や業務改善を継続したことは評価できる。

その他の事項についても、中期計画に定めた事項を着実に実施していると認められることから、全体として、中期目標を達成していると評価できる。

- 新たなシステムの導入による事務処理の効率化や業務改善等により、毎年度効率化係数1%の予算削減に対応した点は高く評価できる。
- 経費抑制に関して、中期目標期間中に新たな情報・財務システムを導入し、運営交付金について、効率化係数1%削減を継続させたことは評価できる。
- A評価としている「経費の抑制に関する目標を達成するための措置」について、新たな学事情報システムの導入、新たな財務システムの導入及び手続きの簡素化・決裁区分の見直しを行ったことは評価できる。
- 費用対効果の観点から各事業のスクラップ・アンド・ビルドの見直しを行うとともに、毎年度効率化係数1%の実施、業務のアウトソーシングや簡素化を図るなど、事務の質・量の検証を実施しており、自己評価ではAとされるが、私も同じ判断である。

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>当評価委員会の評価結果を踏まえ、計画を十分に実施していない項目のフォローアップを行い、公表したことや、FD研修を実施したことは評価できる。</p> <p>認証評価機関による評価において、学生支援及び社会連携・社会貢献の2項目が最上位のS評定を受けたこと、当該評価において明らかになった課題の改善に向けた取組を継続していることは評価できる。</p> <p>その他の事項についても、中期計画に定めた事項を着実に実施していると認められることから、全体として、中期目標を達成していると評価できる。</p>	<p>○過去の業務実績報告書において計画を十分に実施していない項目のフォローアップを行い、FD研修を実施しており、評価できる。</p> <p>○平成30年度外部認証評価において、2項目がS評価を受けたことは高く評価される。</p> <p>○A評価としている「評価の充実に関する目標を達成するための措置」について、外部評価認証において適合の評価（うち2項目はS評価）を受け、評価結果を公表したほか、改善検討課題4件のうち3件を改善し、残る1件についても検討していることは評価できる。</p> <p>○平成23年の外部認証評価の指摘事項に対処し、平成30年の外部認証評価では適合の判定獲得しており、自己評価ではAとしており、私もAが妥当と思われる。</p> <p>○大学院についてはその後の入学状況なども踏まえて、今後の中長期的に抜本的な対応策を検討していく必要がある。</p>

委員意見を踏まえた第2期中期目標期間業務実績評価（案）

7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

業務実績評価書（案）	委員評価
<p>施設設備の整備・活用等に関して、オンライン授業環境など、緊急性と必要性を勘案し、施設設備の整備・改良を行ったこと、大学施設の一般貸出や図書館の施設解放を実施したこと、国際芸術センター青森において市民参加事業を実施したことは評価できる。</p> <p>今後、施設開放の件数及び使用料の増減要因を分析するなど、付帯する国際芸術センター青森を含め、大学の施設設備の効果的な活用を図ることを期待する。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、危機管理対策本部を設置し、適切にリスクマネジメントを行い、対面授業を継続させたことは評価できる。</p> <p>その他の事項についても、中期計画に定めた事項を着実に実施していると認められることから、全体として、中期目標を達成していると評価できる。</p>	<p>○学内 Wi-Fi 環境の整備やコロナ対策としてのオンライン授業システムの構築など、緊急性と必要性を勘案しながら施設設備の整備・改良を行った点は評価できる。</p> <p>○A 評価としている「施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置」について、wi-fi 環境整備などの学内の施設・設備の改良を行ったほか、大学施設の一般貸出の実施、図書館の解放、まちなカラボの見直し、国際芸術センター青森における教育プログラムの実施等を行っていることは評価できる。</p> <p>○施設整備に関しては、学生へのアンケート調査の結果などや社会情勢の変容などを踏まえて、Wi-Fi などの IT 関連施設・設備や食堂・売店などの改善措置を実施している。また、地域連携センター内にメディアラボ機能を設置している。さらに、国際芸術センター青森では、市内小学生の創作体験の受け入れや定期展覧会、ワークショップなどを実施しており、大学の自己評価は A であり、私も A 評価が妥当と考えている。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から危機管理対策本部を設置、体制を確立し、適切に対処したことによって、対面授業を継続させるなど、本学の業務運営を大いに評価できる。</p> <p>○青森公立大学リスクマネジメント規定に基づき、「新型コロナウイルス感染症に係る危機管理対策本部」を設置して、大学としての対応について決定している。</p>